

令和4年度第1回逗子市食育推進懇話会 概要

日 時 令和4年5月30日（月）15時00分から16時30分

場 所 逗子市役所5階 第2会議室

出席者 ◎佐野喜子（アドバイザー）、鈴木洋子、横地みどり、内村力也、渡邊千夏、村上知子、関忠子、川畑明日香

欠席者 堀川ノブエ、近藤千賀、森莊一、大竹清司、森谷紀子、圓谷真理子、吉川裕美

傍聴者 なし

事務局 廣末参事、青山係長、奥戸、柏木

議事概要

1 開会

資料確認及び参事あいさつを行った。

2 自己紹介

アドバイザー、メンバー及び事務局職員の自己紹介を行った。

3 議題

(1) 令和3年度逗子市食育事例集に係る内容確認について

ア 事務局からの提案

事前送付した「令和3年度逗子市食育事例集（以下、事例集という。）」について、本市の食育事例を蓄積し、進行管理や食育の更なる推進のため、昨年度1年間に市が実施した取組みをまとめたものである。今後、庁内関係課の照会を経て、8月頃に公表したい。

については、各自査読の後、事例集の内容や食育の進捗状況等について意見交換を行いたい。

イ メンバーからの意見

事務局からの提案に対し、メンバーから次のとおり意見があった。

- ・事例集P.7「こんにちは赤ちゃん訪問事業」は、希望者だけでなく、対象者全員に啓発できる貴重な機会となるため、今後も継続してほしい。
- ・事例集P.37「男性の健康料理教室」は高齢期男性だけでなく若い世代の男性にもぜひ開催してほしい。

・事例集P.23「おやつについて（油脂分・糖分）」について、家庭の中でもどのようにおやつを与えたらよいか興味があるので、こういった講座は有難い。

・コロナ禍のため、なかなか教育実習ができていない。講話だけでどの程度食育ができるのか、難しいところだと思う。

・事例集P.20,P.21「育ちゆく体とわたし」は、小学生に対する取組みであるが、ダイエットに興味関心が高く、身体の成長があり難しい時期を迎える中学生に対しても実施するよう、改善してほしい。

・給食について、バランスよく様々な食材を食べてもらうためにどのような工夫が必要か、今後も考えてほしい。

・食や食育に興味関心がある人、向上心がある人は情報を得ていくが、あまり関心のない保護者はそうではない。そのような人が少しでも望ましい食習慣になるよう、今後はさらに枠組みを広げた活動もしてほしい。

・小学校での各取組みは、なぜ大切なのかを説明したうえで実施できており、良い事例だと思う。

・各事例は市民のニーズに沿っているか。参加者の声の記載があると評価しやすいと思う。取組みを実施するだけでなく、参加者に感じるものがあるかどうかについて記載があるとよい。

・取組み1つ1つの目的や達成状況が不明瞭な部分がある。

・資料配付だけでは、対象者の反応が分からない。資料の配付方法には様々なものがある。紙資料の配付だけでなくSNSを活用してほしい。

・SNSの活用が進むと良い。ただ、SNSはコミュニケーションをとりにくい面もあるので、集合型との併用が望ましいと思う。

・乳幼児から高齢期まで各ライフステージへ幅広く取組みを実施している点が評価できる。

・食や食育に興味や問題意識がない人へのきっかけづくり、アプローチは課題だと思う。

・子どもを通した親への情報発信は有効だと思う。

ウ アドバイザー講評

アドバイザーから次のとおり講評があった。

・新生児を持つ保護者向けの取組みがあったが、人生の中でも出産後は責任感やポテンシャルが上がる時期の1つであり、各自治体でも力を入れているところだと思う。

・男性料理等の料理教室では、料理のスキル向上だけでなく、地域づくりにも通じる部分があり、参加者同士の繋がりが生まれ交流が広がるといった効果がある。食育は1つの方法論であり、ゆくゆくは食育の取組みが地域づくりへ広がると良いと思う。

・コロナ禍で食に関する事業は多くが中止になる中、食育の事例数が目標に達したことは、各担当者の努力の結果だと思う。

・食育の解決策は、はっきり明瞭なものがあるわけではなく、時間をかけて続けていくしかない。成果が見えないが、何年か続けていくと徐々に変化が生じるため、仕掛ける側が諦めずに継続していくことが大切だと思う。今後もこの場で方法論を考えていきたい。

エ 事務局からの連絡

発表された意見等は各課へフィードバックし、事業改善の参考にするほか、今後の食育関連事業の構築に役立てる。

(2) 各機関における令和4年度食育推進の取組みについて

ア 事務局からの提案

各機関における食・栄養の取組みについて発表してほしい。事務局と協働し得る取組みや機会があれば教えてほしい。

イ メンバーからの意見

事務局からの提案に対して、メンバーから次のとおり意見があった。

・JAよこすか葉山では、令和4年度の食農教育活動として、小学校高学年向けの農業教材本の贈呈を行うほか、地産地消を目的とした「よい食プロジェクト」として地元農産物のPRを行う。また、親子向け酪農体験やじゃがいもの収穫体験、組合員向けの農業塾（野菜づくり）を実施予定。

・鎌倉保健福祉事務所では、2名の栄養士が中心となり地域の食生活改善や健康づくりにつながる取組みをいくつか実施している。基本的に住民向けではなく、給食施設向けの講習会や立ち入り調査が中心。また、地域の食生活対策の協議会では、高齢者の低栄養対策について取組みを進めている。その他、栄養成分表示を活用した健康づくりについて、住民等を対象に機会を捉えて普及啓発を実施している。

・育児サークル連絡協議会では、「ちえぶくろ」という活動を通して、流しそうめんや焼き芋作りを実施し、みんなで食べることを楽しむ機会を作っている。現在、サークルの活動ができなくなってしまったり、参加者が減ってきたりしている。何か団体を通して協力できることがあれば声を掛けてほしい。

・保育園では、事例集P.50「調理保育」にもあるように、植物の栽培や皮むきを行っている。先日はカツオの解体を見てもらった。公立園だけでなく、民間の保育園でも野菜作りを行っている。野菜作りでは、季節に合った植物を保育者側が用意するのではなく、あくまで子どもの興味や意欲を

尊重し、上手くいかないことも含め学びの機会として進めるよう改善している。

・PTA活動の中で共有された事例として、久木小学校地区で落ちた銀杏を子ども達と地域住民が協力して集め販売し、収益は小学校の運営費として寄付をしたと聞いた。また、近隣にある小坪漁港では近年わかめの収穫量が減っておりイカの子どもが育たないため、イカの子どもが育ちやすいよう山で採った間伐材を活用して環境づくりを進めているが、子ども達も交えて何か取組みができないか検討していると聞いた。

・久木地区の「みんなの食堂」はコロナ禍以降3年間クローズしており、その間は社協のフードドライブ等に協力していた。今年からは住民自治協議会が主体となって久木地区の朝市を年に4回実施し、その中で弁当を2回作って販売した。「みんなの食堂」のスタッフは現役の子育て世代と祖父母世代がボランティアとして携わるため、他世代との交流が楽しく、今後も活動が広がることを期待している。コロナ禍のため、居場所作りをどのように計画していくか、検討中である。

・中学校では事例集に出ているように家庭科の授業での取組みが多いが、調理実習が難しい中でもできる部分を工夫して実施している。今年度は調理実習を拡大する予定であり、子ども達も楽しみにしている。また、中学校給食が9月から食缶方式に変わるため、各校が準備を進めている。今までと違う給食の提供に向けて子どもたちと一緒に食を考えていきたい。事例集P.27「中学3年生への食育資料配付」について、リーフレットをもう少し早めに届けてほしい。卒業を控え他の資料に紛れ印象づけにくいため、もう少し早ければ少し余裕をもって話ができると思う。

ウ アドバイザー講評

アドバイザーから次のとおり講評があった。

・JAの農業体験や漁協での取組みなど、実体験ができる場合は貴重である。逗子は海や山もあり素晴らしい土地環境があるので、そのような体験は1回だけだったとしても、0回と1回は全く違う。例えば魚を捌くことについても、家でやるよりも大勢で教わる方がよりいきいきと鮮明に記憶に残ると思う。そのような体験を児童生徒が行った場合は、感じたことや話したいことを保護者にも伝えられるよう、感想を保護者が目にできるような体制を期待したい。

・コロナが収束した後は、男性料理の参加者が活躍できる環境を作ってほしい。子ども食堂のような場で調理や配達要員として地域住民が活躍する事例もあり、検討してほしい。

(3) 第2次逗子市食育推進計画の改訂における情報共有

第2次食育推進計画との関連を踏まえ、事務局より、市総合計画に係る調書1, 2, 5について説明があった。

4 その他

事務局より、今年度の懇話会日程等について連絡があった。

5 閉会

以上